



子宮の病気って?



子宮の病気の多くは、お腹の中にある子宮に膿や水などがたまります。

メスの生殖器では子宮の病気が目立ち、一番多いのは、子宮内が細菌に感染することで炎症を起こし、内部に膿がたまる「子宮蓄膿症」です。そのほかには、子宮内に液体が大量にたまる「子宮水腫」、進行すると子宮蓄膿症を発症することもある「子宮内膜症」、子宮内部に悪性腫瘍ができる「子宮がん」などがあります。

主な初期症状

- しきりに陰部を舐める
- 陰部から分泌液が出る
- お腹が腫れる など…



予防法

子宮・卵巣を摘出する避妊手術を受けることで、生殖器や乳腺の病気の予防につながります。

子宮の病気で一番多い「子宮蓄膿症」って?

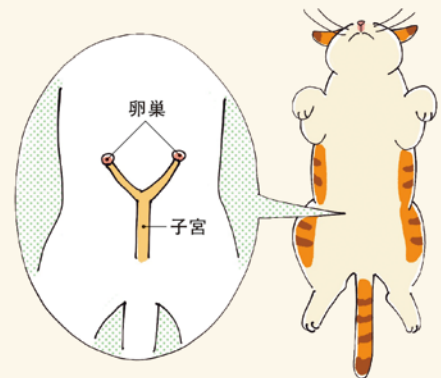
子宮内が細菌に感染することで炎症を起こし、内部に膿がたまります。発情周期によるホルモンの影響で、ふだん閉じている子宮頸管が開くため、細菌が侵入して発症しやすい傾向に。病気が進行すると子宮中の膿の量が増え、子宮が破裂して手遅れになる恐れもあります。



子宮の病気にかかりやすい年齢は?

7才以上の、避妊手術を受けていない猫が発症することが多いといわれていますが、1才前後の発症も認められ、まだ若いから大丈夫という病気ではありません。

避妊手術は全身麻酔をしたうえで、子宮と卵巣、もしくは卵巣のみを摘出します。避妊手術の時期は、最初の発情期(おおむね6~8カ月齢頃)の前に行うのが理想です。



治療法

「子宮蓄膿症」の場合、子宮内部にたまった膿がごく少量であれば、投薬で治療する場合がありますが、再発の可能性が高いため、子宮と卵巣を摘出する手術を行うのが一般的。早期に処置をすれば基本的に完治する病気です。

雑誌「ねこのきもち」では、健康情報や困りごとなど飼い主さんの「知りたい!」を解決! ●こちらは、掲載した記事を再編集したものです。

アニコム損保ご契約者が
マイページから定期購読を申込みと

2号 (2ヶ月分) **無料!!**

